

JABEE創立25周年記念大会
2024年6月5日（水） 建築会館ホール

これからのJABEEについて

—電子情報通信・コンピュータ分野—

電子情報通信学会 アクレディテーション委員会
電子情報通信・コンピュータ分野委員長
講演者：和田 成夫（東京電機大学）

JABEE活動の状況（委員活動1）

黎明期
(Plan)

年度	委員会	学会誌
1999	・「JABEE対応委員会」JABEE設立（1999年11月）に合わせて設置	
2000		
2001		・大学における技術者教育と改革の方向 篠田庄司 Vol.84 No.1pp.57-67
2002	・「認定企画実施委員会」拡充的に組織改革	・JABEEへの電子情報通信学会の対応 秋山稔 Vol.85, No.12, pp.875-877 ・JABEEに認定申請するためにはどうしたらよいか－学部における技術者教育システムの改善と発展のために－ 牧野光則, 篠田庄司 Vol.85, No.12, pp.877-895
2003		・JABEEへの電子情報通信学会の対応 鳳紘一郎 Vol.86, No.12, pp.934-935 ・ホームページ「JABEE受審の難形モデル」の有効活用に向けて 研修・講習部会 Vol.86, No.12, pp.935-944
2004		・JABEEとCPDへの取り組み状況と最新の情報 認定企画実施委員会 Vol.87, No.12, pp.1068-1068 ・JABEE認定制度を取り巻く国際動向 三木哲也 Vol.87, No.12, pp.1069-1071 ・電子情報通信分野におけるJABEE活動の早期立上げ－これまでの活動と今後の予定－ 家田信明 Vol.87, No.12, pp.1072-1074 ・JABEEにおける最新の動き－いま何が問題となっているか？－ 篠田庄司 Vol.87, No.12, pp.1077-1094
2005		
2006	・「アクレディテーション委員会」名称変更	
2007		・ABETの認定制度との比較で、JABEEの認定制度の理解を深める 篠田庄司 Vol.90, No.10, pp.908-922
		・「工学教育の未来に向けての変化」（篠田庄司） Fundamentals Review 2巻3号 p.3_4-3_1
2014		
2015	・教育功労賞の制定	
2016		
2017		
2018		
2019		
2020	・COVID-19対応措置	
2021	・COVID-19対応措置	
2022	・COVID-19対応措置	
2023	・COVID-19対応措置	

- ・JABEE設立時より正会員として参画し、理事1名推薦
- ・認定・審査調整委員会、基準総合調整委員会へ委員推薦
- ・認定事業委員会、基準委員会へ委員推薦
- ・専門職大学院の認証評価、高専教育を認定する日工教を認証する部門への委員推薦

電子情報通信学会誌 Vol. 85, No. 12, pp.875-895, 2002年 12月

Contribution

JABEEの審査と認定への申請に向けて

寄書 秋山 稔 篠田庄司 牧野光則

発行所 名古屋 工業系大学システム工学部
E-mail: akoyama@shu.ac.jp
編集長 長瀬 文彦 一橋大学理工学部電気
電子情報通信学部
E-mail: nakano@shu.ac.jp
発行所 新潟 新潟県立大学工学部電気工学
E-mail: nakaf@nic.ac.jp

Towards the Accreditation and Examination by the JABEE, by Mitsuo ARIYAMA, Member (Faculty of System Engineering, Shizuoka Institute of Technology, Satsumachi, 300-8579 Jpn.)
HIROKAZU, Editor (Department of Electric, Electronic and Communication Engineering, Chuo University, 112-8581 Japan), and Mitsuru MAKINO, Member (Department of Information and System Engineering, Saitama University, 338-8501 Japan).

JABEEへの電子情報通信学会の対応
Activities of the IEICE for the JABEE Accreditation and Examination
認定企画実施委員会委員長 秋山 稔

電子情報通信学会（以下、本学会という）では、国際的に通用するエンジニアについて検討する委員会を以前から設けていたが、日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education, 略してJABEEと書き、ジャービーと読み）の発展に合わせて約3

より明確化し、かつ、より機動的とするために、本学会のJABEE対応委員会と企画室（理事会の諮問機関であり、学会の中長期的なビジョン等を審議する場）は合同で、JABEE対応委員会活動に関する部分を拡充的に組織改革する案を理事会に提案し、2002年4月に了承さ

情報ネット
—いま、学会では—

ABETの認定制度との比較で、JABEEの認定制度の理解を深める

Deepening the Understanding of JABEE's Accreditation System, in Comparison with ABET's

アクレディテーション委員会委員長 篠田庄司

abstract
巻に
しよ
のよ
キョ

情報ネット
—いま、学会では—

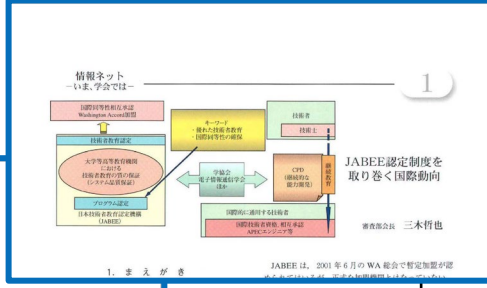
技術者教育と優良実践研究会の活動について

Activities of Technical Group on Engineering Education and Good Practice

石井六哉 横田光広 中野敬介

1. 研究会の成り立ち
本会が関係する分野（電気・電子・情報通信及びその関連分野、情報及び情報処理分野）で JABEE の審査を

とは完全に一致し、互いに関わりあう関係も持している。
本研究会の主な目的は、以下のとおりである。



JABEE活動の状況（委員活動2）

年度	総合大会・シンポジウム・ソサイエティ大会・研究会	審査員講習会
1999		
2000		
2001	・ JABEEへの取組み ―平成12年度JABEE試行実験の結果と今後の計画―	2回
2002	・ JABEEシンポジウム ―来月から本格審査実施、準備は大丈夫か―	2回
2003	・ JABEEシンポジウム “2003年度対応の審査に向けた状況、ならびにJABEE受審の雛形モデル”	2回
2004	・ JABEEシンポジウム ―教育貢献評価とその実例―	2回
2005	・ JABEEシンポジウム JABEEとCPDの最近の話題	2回
2006	・ JABEEシンポジウム ワシントン協定加盟後のJABEEの動き ・ ESSの技術者教育と優良実践研究会(第三種)発足	2回
2007	・ 技術者教育シンポジウム	2回
2008	・ 優良実践技術者教育プログラムシンポジウム	2回
2009	・ 今話題のRubrics：必要な学習成果評価ツール ・ 技術者教育の実践例－教育目標の設定と達成度評価を中心に－	2回
2010	・ 2010年度JABEE認定基準の改定に関する説明会 ・ 技術者教育における優良実践シンポジウム ―技術者教育におけるコミュニケーション能力向上の取り組み―	1回
2011	・ JABEEの最新動向 ・ エンジニアリング・デザイン能力育成はどうすればよいか？	1回
2012	・ JABEEの最新動向～2012年適用認定基準と審査方法が目指すもの ・ エンジニアリング・デザイン能力を育成する取り組み	1回
2013	・ JABEEの最新動向～新基準による審査から見てきたこと ・ 技術者教育とチームワーク,プロジェクト,コミュニケーション	
2014		1回
2015		
2016		1回
2017		1回
2018	・ JABEE審査説明と2019年度認定基準改定	1回
2019		
2020		
2021		
2022		
2023		

推進期
(Do)

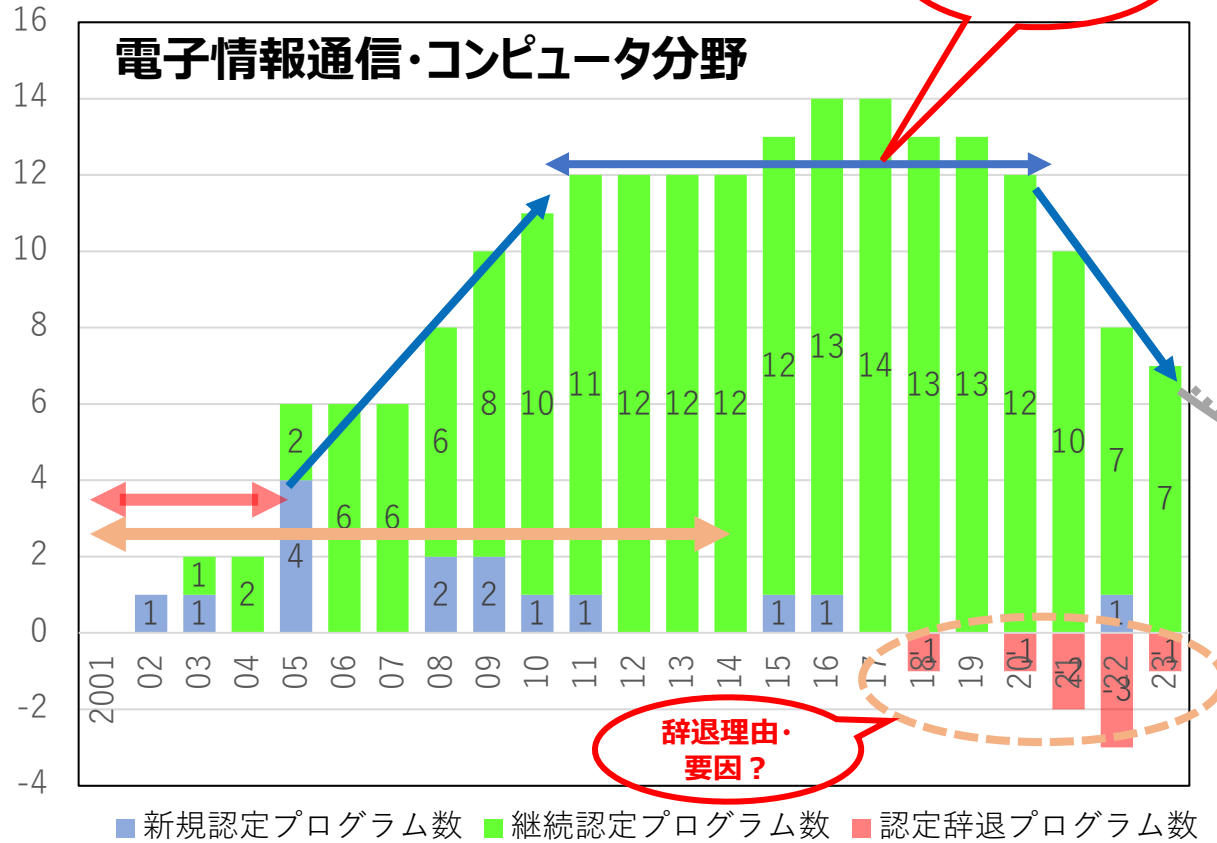
ルーティン期
(Do)

点検時期
(Check)

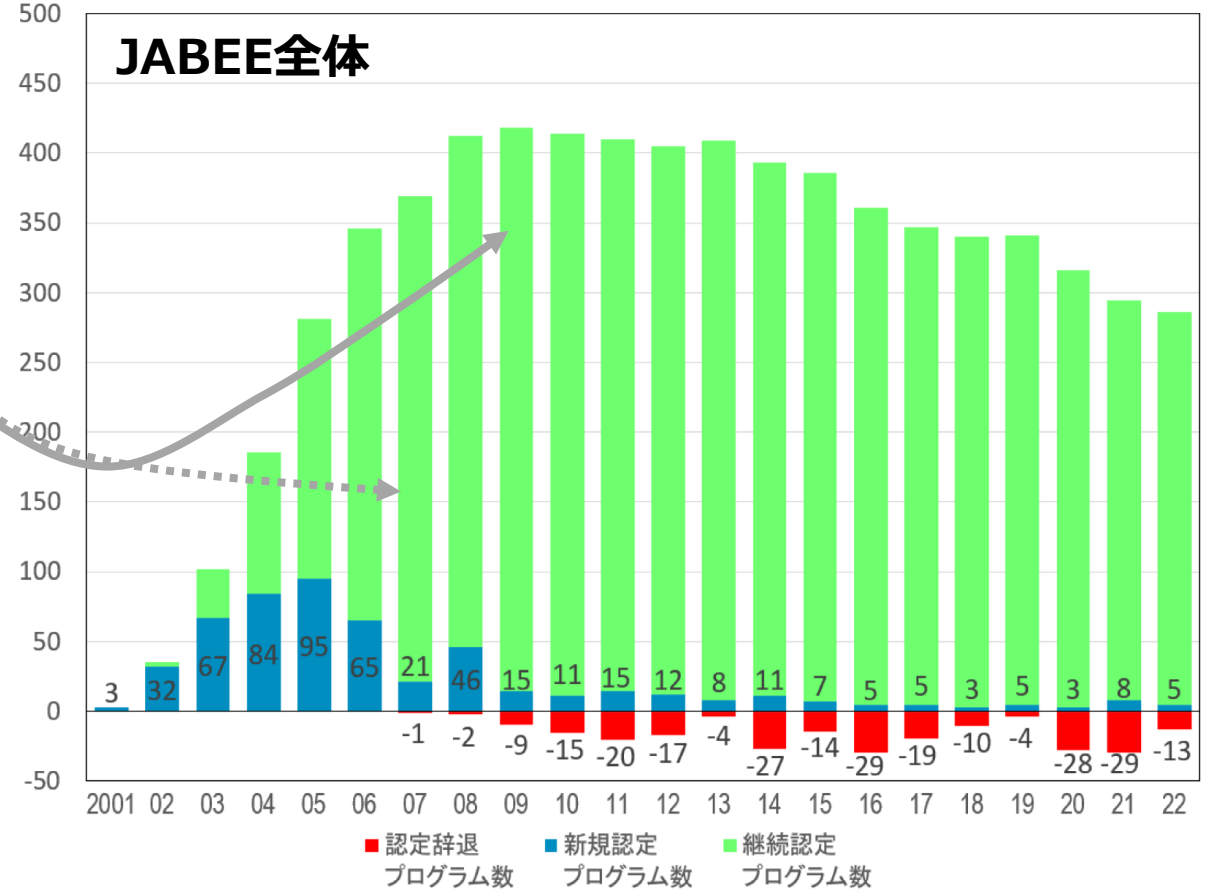
認定数と
相関？因果？

認定プログラム数の推移の分析

飽和まで11年，ピークまで17年
ピーク時の約50%



飽和まで8年，ピークまで9年
ピーク時の約75%

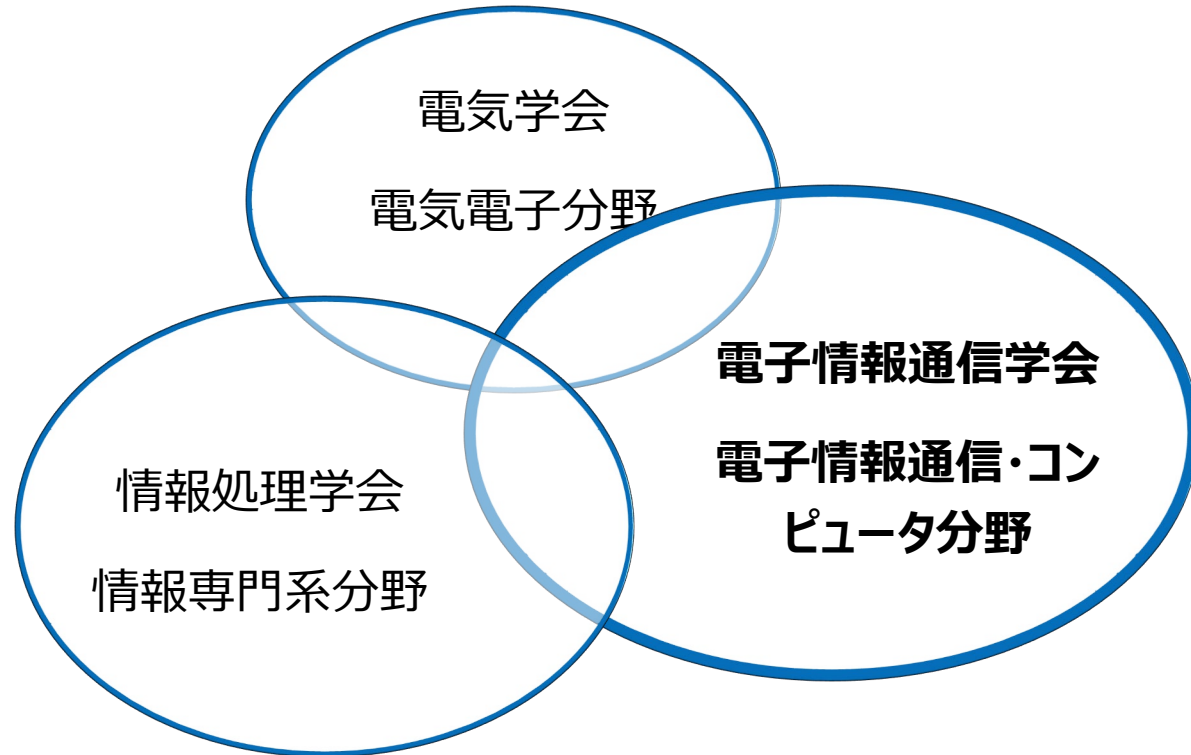


課題 1. 電子情報通信・コンピュータ分野の認定プログラム数の減少傾向 (Check)

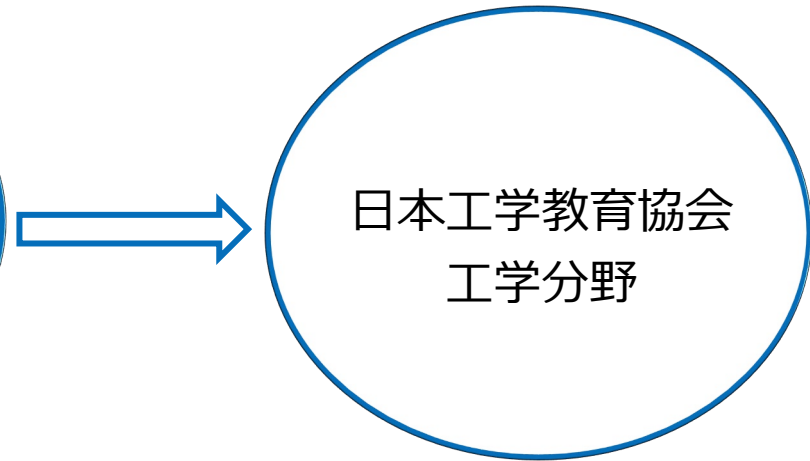
JABEE活動の状況（分野間連携活動）

類似分野間で連携（分野別認定審査の相互協力，審査員派遣）

分野別審査委員会（合同開催）2回/年



分野別審査委員会（委員派遣）3回/年



課題 2. 認定審査の負担軽減 (Check)

JABEE活動を活性化するために（1）

課題2. 認定審査の負担軽減化 (Action plan)

◆ 審査員依頼時の学協会事務局の負担

審査業務の負荷，審査員高齢化，審査員候補者の減少，認定プログラム数の減少やJABEE価値の浸透の低さからか新規審査員希望者が集まらない

提案：JABEEの広報

・関係機関へリニューアルJABEEの広報とともに審査員就任依頼の案内。関係機関とは，既受審校，プログラム修了生が入社した企業，企業審査員経験者所属企業，研修・教育センターを有する企業，受審対象と考えられる教育機関など

◆ 審査委員会時のプログラム点検書の作成およびチェックの負担

認定プログラム数が多いときはハンドリングに多大な労力

提案：JABEE審査の過度の負荷は徐々に改善されつつあるが，周知は不十分

- ・JABEE審査の手順やプロセスは簡素化され，リモート審査導入により改善の方向
- ・リモートでの委員会実施により，負荷改善の方向
- ・AIを用いた審査の検討

多量エビデンス保存など
ネガティブイメージ払拭

JABEE受審申請のハードル低下

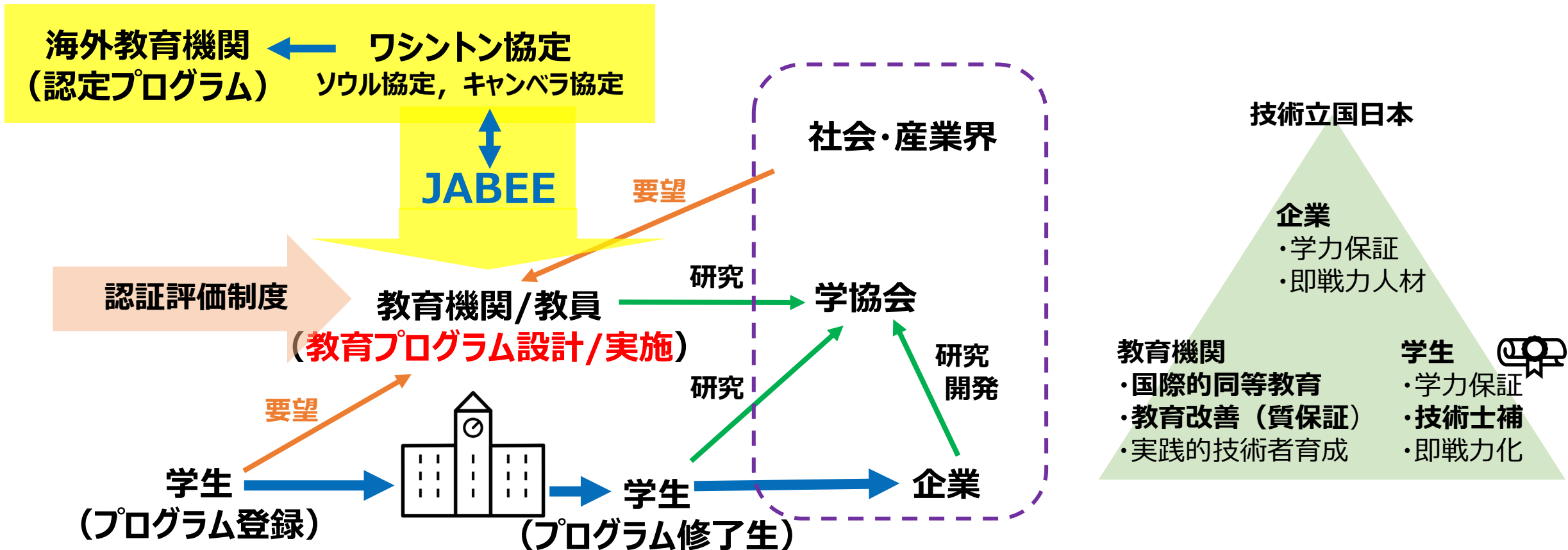
JABEE活動を活性化するために（2）

課題 1. 認定プログラム数増加の方策 (Action plan)

◆ JABEE認定意義の再確認

（WAへ非英語圏で初加盟，IEA（国際エンジニア連合）などで工業国としての地位保持・確保）

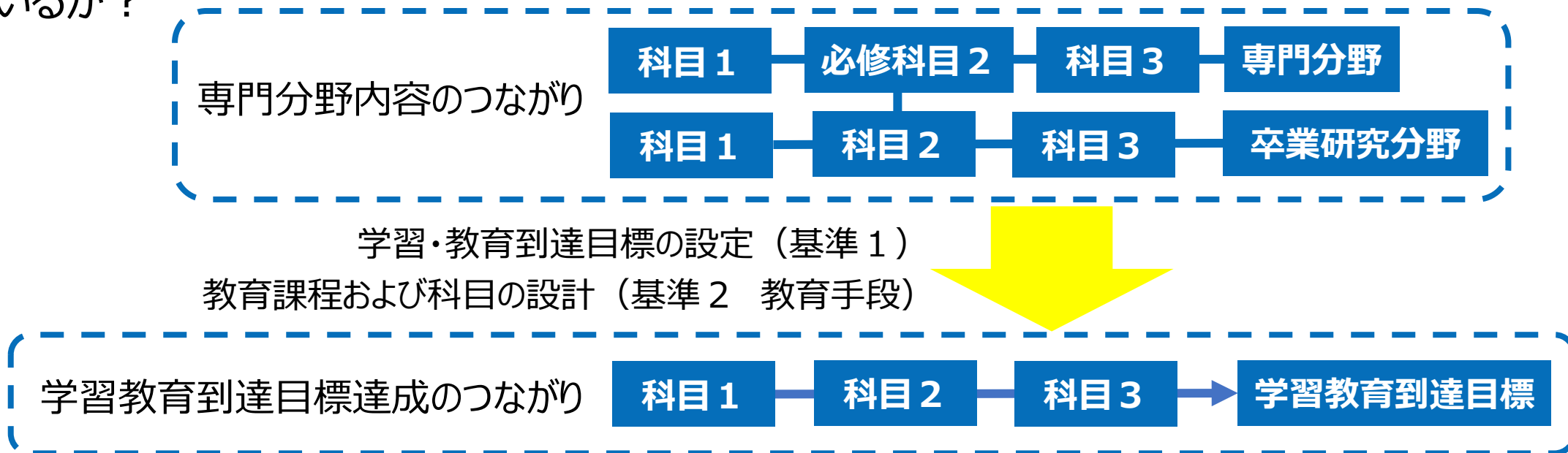
提案：現在のJABEE認定の意義を審査員，教育機関，学生，企業，社会が享受すべく共有



◆ 国際的同等教育

カリキュラム体系化設計の指針

国際的に認められた(a)～(i)項目の知識・能力観点を取り入れた教育を実践し、評価しているか？



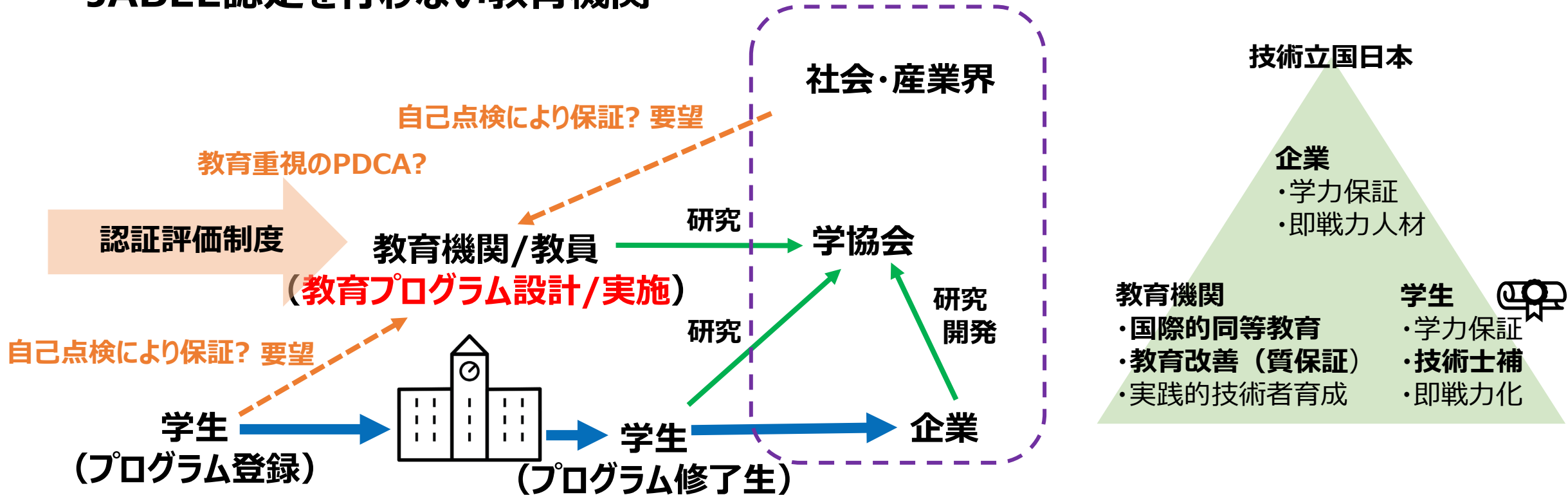
提案：海外の認定プログラム状況や著名大学事例に関する情報の発信

- ・留学生や工学系プログラムの連携事例（マレーシア国費留学生など）
- ・グローバル教育推進教育機関での活用検討（ダブルディグリーなど）
- ・デジタル人材育成教育機関での展開検討（AI, データサイエンス技術者教育など）

JABEE活動を活性化するために（3）

JABEE認定を申請するか否か，継続するか否かは**教育機関**が判断するが，IEICEは何をするか（活動を活性化する取り組み）

JABEE認定を行わない教育機関



◆ 教育改善

内部質保証および教育の質保証

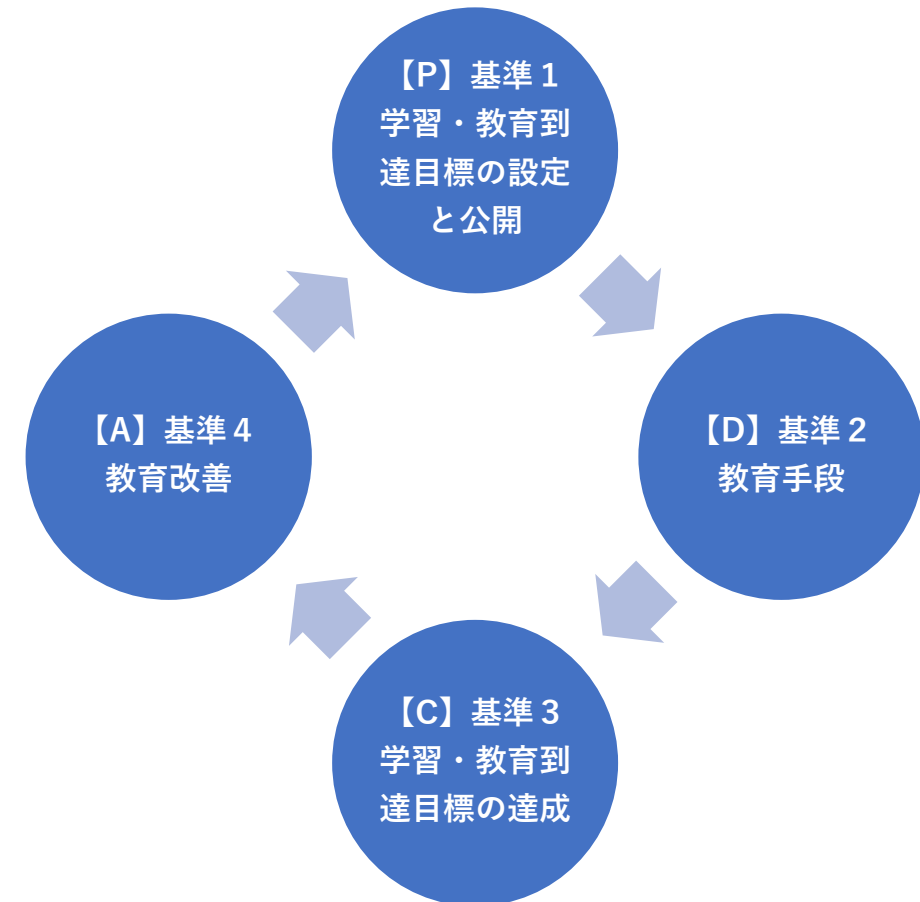
新規申請の意義

- ・教育認定の国際標準化の動向（医学，薬学，看護学等）
- ・技術士など専門職業人教育のための専門分野別認定
- ・学生にとって学習・教育的有益性提供
- ・教育改善システムの構築
- ・技術立国日本の再建

課題

- ・教員は，どのように教育を行えば能力観点を修得させることができ，評価できるか分かり難い
- ・学生は，何が出来るようになれば能力が修得できたか分かり難い
- ・教育機関の自発的独自の短期的な努力を評価してもらい経済的支援などを得られる方が，継続的な審査により評価を受け，国際的認証を得られるよりもモチベーションが高い？（費用対効果の改善）
- ・教育プログラム認定を重点においた審査のスリム化など

提案：教育機関への教育改善活動の支援やプログラム学生への教育支援



◆ 認定継続の意義

教育機関にとっての
メリット強化

・技術士（国家資格）の継続的養成・輩出

提案：高校生にとって魅力的な教育プログラム，在校生にとって魅力ある専門職であり，産業界で歓迎されることの広報検討

・絶え間ない教育改善活動

アップデートからアップグレード活動を行うことの評価，積極的なPDCA活動を行うこと等への評価の検討

提案：基準4 教育改善点検項目の検討

・継続申請することの意義

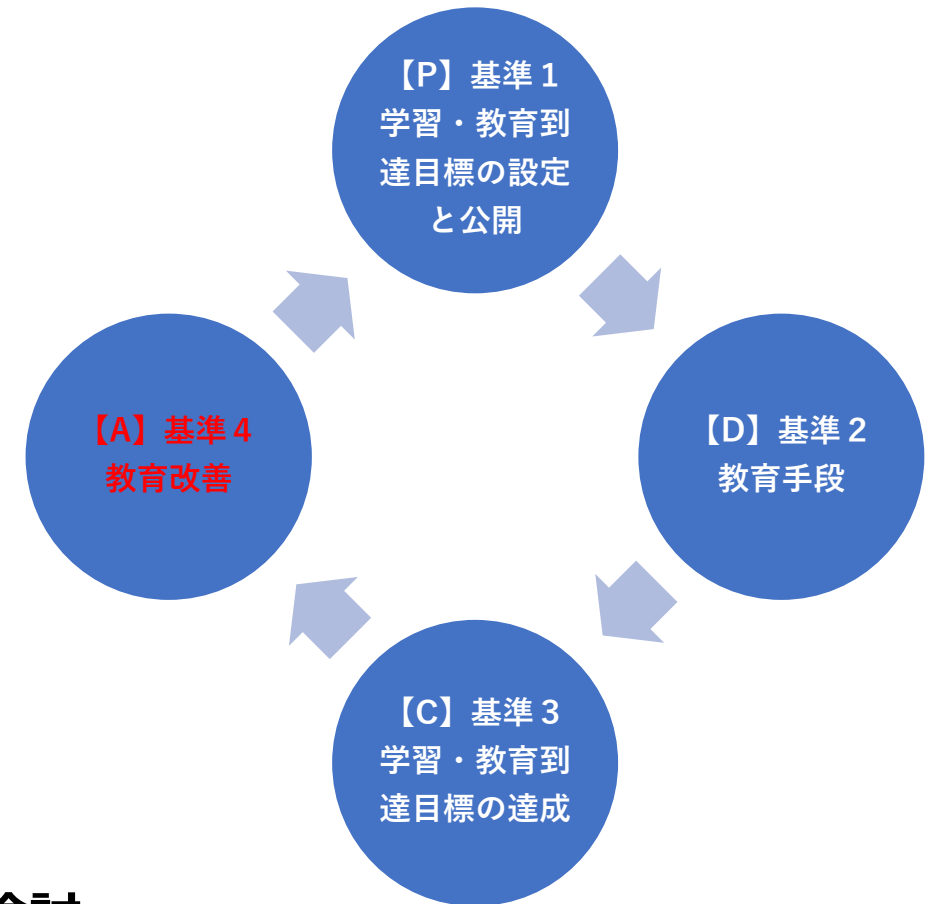
提案：ゴールド，シルバー，ブロンズ，プラチナなど継続年数に応じた認証クラス化，または表彰制度などの検討

・教育プログラムに関する教育改善活動

提案：JABEE認定の教育改善活動を行っている教育機関は，法令にもとづく認証評価等との連携においてアドバンテージなどの検討

・JABEE認証の推奨化，義務化など専門分野別認証評価など方法の検討

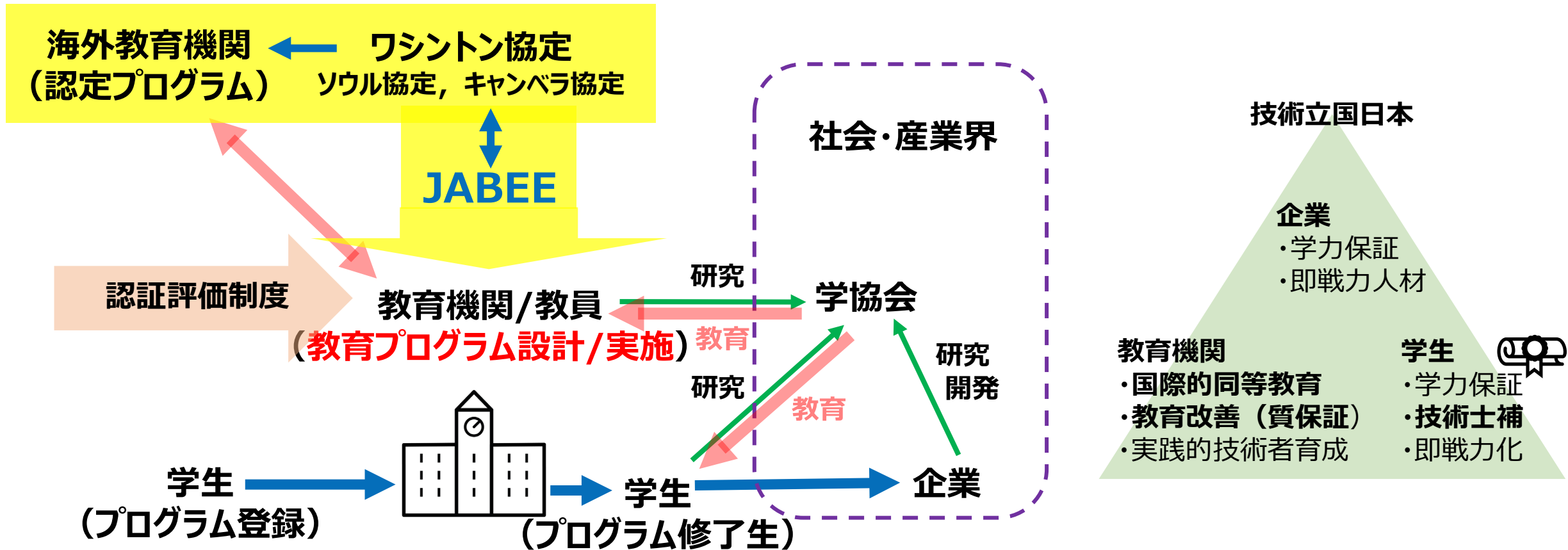
・教育機関のIR部門の継続的活動の評価検討



JABEE活動を活性化するために（４）

◆ IEICEから教育機関へJABEEに関する教育支援

提案：コンテンツ配信，教育・研修支援（教育支援者養成支援（企業人の参画，産業界（研究職）から教育機関（教育職）への移籍など），教育表彰，セミナー開催，寄稿，専門講師派遣，教育手法コンサル，分野連携など）の検討



まとめ

JABEE発足から今日までの電子情報通信・コンピュータ分野（電子情報通信学会）のJABEE活動を整理し、状況や課題を紹介した。

点検の結果、認定プログラム数の飽和と減少傾向を重要課題と捉え、この問題に対処することはJABEE活動を活性化するための必要条件と位置付けた。

活性化に向けた改善活動の取組状況やJABEE認定の意義を再確認しながら、分野として力を入れていくべき取組案や分野間、JABEEと連携して取り組むべき案（アクションプラン）について検討した。

※取組の提案には、個人のアイデアや少数意見が含まれていることを付記します